

未来の学校づくりを 考えるプロジェクトだより



第 5 号

令和 4 年 11 月 8 日 発行
納 所 小 学 校 P T A
未来の学校づくりを考えるプロジェクト

これからの学校を考える



プロジェクト(第3回(7/7)、第4回(8/25))で検討を重ねる中、「将来の学校をイメージするきっかけとしたい」との提案がありました。そこで、令和4年9月8日、京都市立開晴小中学校の初代校長である初田幸隆先生に納所小学校へお越しいただきました。

講演会のテーマは「子どもたちが生きる社会と育てたいカ-これからの学校の在り方考える-」です。オンラインでも配信し、横大路小学校からも参加いただきました。

講演会でお話しいただいたこと

「学校は何のためにあるのでしょうか？」普段考えることのない問いかけから始まりました。でも、すぐに話に引き込まれました。具体的な例を挙げながら、順を追って丁寧にお話いただいたので、1時間があっという間でした。お話の流れに沿って、紹介します。



1 近未来の社会を考える

「20年後、あなたが望もうが、望むまいが現在の仕事のほとんどが機械によって代行される。」(ラリー・ペイジ(グーグルCEO)[2017]) 人生100年時代、今の小学4年生は22世紀を見ることになるでしょう。いろいろなものがつながる社会、つながりあって便利な社会ができていきます。

2 これからの社会で求められる力を展望する

これからの変化の激しい社会で自らのより良い姿を目指す時、その実現に向けて歩む道筋を自らが考え、時には多くの人々と協働しながら課題を解決しなければなりません。そのためには、テストでは測れない協調性やコミュニケーション力などの「非認知能力」を伸ばすことも大切です。

3 子どもは変わったのか



少年非行が激減する一方で、少年非行において小学生が占める割合は高まっています。また、身の回りの大人に反発を感じる児童の割合が小学4年生から5年生にかけて急激に増加します。このことは思春期の訪れが早くなり、小学5,6年で生じる様々な問題の背景にもなっていると考えられます。

4 小中一貫教育はなぜ必要か

子どもの発達が小(6年)、中(3年)という枠組みに合わなくなっており、これからの社会を見据えて義務教育の9年間でどんな子どもに育てるのかを考え、小中教員が目標の実現に向けて取り組む教育「小中一貫教育」が求められています。

また、目標の実現には、課題解決できる力をつける必要があることから、教え込む教育から自ら学ぶ教育への転換を図ることや、縦割りの人間関係等の多様な学びの場やしゅきが必要となります。

講演会の中からクローズアップ

開晴小中学校での一場面



「小学3年生以上の参加のもと、6年生が司会を担当し、中学3年生が自らの探究テーマについて発表した時のことです。

『血液型と性格には関係があるのか、について発表します』と言った瞬間に、小学3年生が手を挙げて質問しました。『血液型って何ですか?』中学生は『血液型はA、B、O、ABがあります。』と答えました。

すると、司会の小学6年生が『血液型に何型があるのか聞いているのではなくて……』と中学生にアドバイスします。

小学3年生の質問で、発表者である中学3年生は血液型そのものについて答えられない自分に気づいたのです。縦割りの活動が日常的にみられる施設一体型だからこそその一場面でした。」

地域ぐるみで応援する学校

「子どもや子どもを取り巻く教育環境の実態を踏まえ、学校が最善を尽くすには、保護者や地域の方のご意見も交えながら、地域をあげて学校をつくっていく仕組みをつくり、地域ぐるみで応援していただく学校に変わる必要があります。

納所小学校、横大路小学校、洛水中学校のみなさんで、これからの地域を担っていく子どもたちがどんな学びをしていくのかを考えていただきたいと思います。」



学校での学びが変わってきている

第5回 未来の学校づくりを考えるプロジェクト

◎日時 令和4年9月22日(木) 18時30分～19時30分

講演会の振り返りを行うとともに、現状を把握し、今後の活動の参考とするため、アンケートについて項目などの検討を行いました。

今後、アンケートのご意見なども踏まえて、検討を進め、令和4年度末までにPTA総会(もしくは臨時総会)へ「洛水中学校区での小中一貫教育校の創設を進めるかどうか」について提案することを目標としています。



講演後の感想など

- これから社会で求められる力は自分で解決していくための資質・能力であり、学校での学び方も変わってきていることを知った。
- 思春期が早まっていることは子育てで実感している。これからの9年間の義務教育では新しい区分がよいのではないかと思った。
- 小規模校では知識を丁寧に教えることができるメリットがあることも押さえたい。一方で、小中一貫教育校には、これからの社会を生きる子どもに対して、多様な学びの機会があることは魅力。

講演会のDVDを貸し出します。是非、ご覧ください！

講演会に参加できなかった方、もう一度じっくり聴いてみたい方など貸出をご希望の方は、学校もしくは特別委員会の委員へお声かけください。